

## 1 学校関係者による評価

領域	学校関係者による評価と今後の課題
学校運営	<ul style="list-style-type: none"> <li>・PTA、若竹会（卒業生の会）との連携が長年、継続していることは素晴らしいことだと思います。公立学校では、教員の異動が激しく、同窓会組織が弱いので、若竹会は貴校の特色だと思います。</li> <li>・情報発信については、貴校の少人数制のよさを感じてもらうために、学校公開を広く知らせてはどうでしょうか。例えば、東久留米市では、小学校入学にあたり、学校の日常や特別支援のシステムについて、理解いただくために、市民（就学前の保護者）に全校公開日を設けたり、幼稚園や保育園の教員を対象に「オープン1年生」の日を設けたりしています。</li> <li>・業種を問わず人材不足で、教育現場では一層深刻だと聞いています。機械的な作業と異なり、機械やITでの代替が不可能なことが多いと思うので、良い人材をいかに獲得し、定着させるかが肝要かと思います。</li> <li>・事務周りの業務の効率化・省エネ化や、思い切った行事の縮小なども検討が必要かと思います。</li> <li>・アンケートを拝見する中で、教職員の人手不足がフォローする職員や授業に影響しているように見受けられました。</li> <li>・福祉・介護の分野では慢性的な人材難ですが、教育現場でも教職員不足による運営の難しさを感じました。学大は療育の研究機関であり大切な事業であると認識していますが、同じ公的機関である都立特別支援学校との連携や教員との交換研修（3年くらい）を行うなど活性化や人的配置の安定につながると良いなど。制度や仕組みの違いがあり難しいことも承知ですが、将来を見据えた運営の工夫に期待したいです。</li> </ul>
教育活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学部の余暇支援の実践の場としての「しゅみの時間」の授業は、大変よい取組だと思います。東久留米市の市議会でも、障がい者の余暇支援について話題となることがあります。学生時代からの「楽しい」という情動体験や余暇支援の在り方等について議論がなされたことは、意味深いと思います。</li> <li>・病気や看護・介護を理由に休職したり、年休取得が重なったりして常勤職員が不足し、最小限の教員人数で指導にあたるのが度々あるのは、公立学校でも大きな課題となっています。講師や学校を支援する様々な会計年度職員が配置されるようになったことで、なんとかカバーしています。そのような中で、園児・児童・生徒の安全を確保しながら、教育活動の充実を図れたことは価値あることだと思います。</li> <li>・少人数制で、児童：教員の比率でも非常に手厚く、丁寧な教育がなされていると感じます。</li> <li>・コロナ感染症も5類へと移行し、校外活動や地域交流が再開でき、本来の学習や活動に近づけているのではないかと思います。貴重な学校生活を送る為にも、これまで制限が多く我慢することばかりでしたが、のびのびと学習できる環境作りとともに、久しぶりの活動で予見できないことも多々あると思います。そのためにも職員間のコミュニケーション、怪我や事故についてのリスク管理等に注意して安全に実施していただきたいです。</li> </ul>

研究活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>研究部主導で、夏季休業中に3回実施した講座は、興味深いと感じています。本市の教員に対しても、特別支援教育について研修したり、日常の質問・相談をしたりする場がなかなか無く、苦慮しています。「ことば」「進路」「WISC」のテーマであれば、公立学校の特別支援教育に携わる教員も知っておくべき内容かと思います。市内公立学校の教員も参加できるような研修があれば、参加させたいと思いました。</li> <li>机上の理論だけではなく、教育の現場での知見を研究に反映させられることがすばらしいと思います。その知見を、特別支援の教育現場だけではなく、広く社会全体に広める、すなわち、社会前提で障害のある方に対する理解を深められるような広報に繋がれるとさらに良いと感じました。</li> </ul>
学生の教育・支援活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>教育実習生の受入れなど、とても充実していると感じます。人材が宝なので、学生が障害のある児童を含む教育現場に定着するよう、教育の魅力のアピールやフォローなどにも注力されると良いと感じました。最近の学生は、ワークライフバランスに敏感ですし、就職先に長く勤めるべきという価値観も希薄なので、いかに魅力ある職場にするかも大切な視点だと思います。</li> <li>都内の特別支援学校は少子化の中でも、児童、生徒が増えていると聞きます。反対に教員不足という課題に対して教育の質が下がらないよう、将来を担う学生に対してやり甲斐の持てる育成プログラムと魅力ある職場作りに期待したいです。福祉の現場も同様ですが</li> </ul>
社会貢献活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>本市の様々な会議や相談にご協力いただき、ありがとうございました。今後ともよろしくお願いたします。</li> <li>貴校の隣の成美センターにある学習適応教室を利用している子ども達に校庭を貸していただき、ありがとうございました。子ども達の体を動かす楽しい時間になりました。</li> <li>発達相談により、当事者のエンパワメントに繋がるような活動はとても良いと思います。</li> <li>今年度は、夏祭りの「夕涼み会」が久しぶりに開催でき、地域の福祉団体や近隣の商店街、市民の方など多くの来場者がありました。地域の方もずっと心待ちにしていたようで、障害のある、なしに関わらずみんなが集い、楽しめる場所として、長年に渡り地域開放していただいている学校に感謝いたします。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>市内の保護者等からの相談にも多々応じてくださり、ありがとうございました。就学相談にかかる保護者の中にも、貴校に期待を寄せている声を耳にしています。今後ともよろしくお願いたします。また、同じ市内なので、本市の知的特別支援学級との直接交流が、合同運動会以外にもできると嬉しいです。</li> </ul>

## 2 評価の実施概要

### 1) 学校関係者評価委員会の開催 年2回(7月、3月)

- 第1回 授業参観、施設・設備の観察、協議(学校の状況、学校経営計画、今年度の重点課題等について)  
質疑、評議員からの助言・提言
- 第2回 授業参観、施設・設備の観察、協議(学校の状況、今年度の反省等について)  
質疑、評議員からの助言・提言

## 2) 学校関係者評価委員会の内容

- 第1回 令和5年度学校経営計画について  
新型コロナウイルス感染症への本校の対応について  
令和4年度保護者アンケートの結果について  
令和4年度教員の働き方についてのアンケートについて  
令和4年度学校関係者評価書
- 第2回 学校経営についての今年度の状況・評価、各学部の状況報告  
令和5年度第1回学校評議員会協議書のまとめ  
令和5年度保護者アンケートの結果について  
令和5年度教員の働き方についてのアンケートについて  
学校評価の記入依頼

## 3 学校関係者委員会委員，開催日

### 1) 学校関係者委員会委員（学校評議員）

- 村山 奈美子 （東京障害者職業センター多摩支所長）
- 河野 直樹 （東久留米市さいわい福祉センター所長）
- 古舘 秀樹 （東京都立清瀬特別支援学校校長）
- 黒松 百亜 （晴海協和法律事務所 弁護士）
- 川村 紀子 （東京学芸大学附属特別支援学校前PTA会長）
- 宮内 正敬 （東京学芸大学附属特別支援学校若竹会会長）
- 小瀬 ますみ （東久留米市教育委員会指導室参事兼指導室長事務取扱）

### 2) 学校関係者委員会開催日

- 第1回 令和5年7月18日（火）
- 第2回 令和6年2月27日（火）